

東海(医)

003

2025年度

医学部医学科特別選抜
(展学のすすめ)

《小論文》

— 2024年11月10日 —

小論文課題

以下の文章を読んで、下記の問いに答えてください。

一般に、「健康」というと、「完全無欠」の状態と思いきこんでいる人が多いようですが、そういうことはあり得ません。極端な言い方をすれば、人間というのは、生まれたときからすでに死の遺伝子を持っているのです。つまりこの世に生を受けた瞬間から、死に向かって生きているともいえます。

ただ死に向かっているという症状がないから、自覚していないだけです。体のなかでは、つねに大きな変化が起こっていても、私たちはそれを知らないだけです。そして、死の直前になって命に変化のあることに気づくので、急にこわくなってしまいます。

(中略)

こう考えると、人間はだれも、「完全な健康」でいることは難しいのです。多少健康に問題があってもそれを指摘されても、むしろ「健康感」を持って生きることのほうが重要だと思います。死や病気におびえてびくびく生きていては、人生の喜びが半減してしまいます。だれもが死を抱えながら生きていますから、健康感さえ感じることができれば、たとえ体の機能が多少おかしくなっても、救われる気持ちになるのではないのでしょうか。その前向きな気持ちが活力となり、病気が本当に快方に向かうことも多いのです。

出典：日野原重明 著『生きるのが楽しくなる15の習慣』講談社+α文庫

(問い)

筆者が言う「健康感」と、あなたが考える「健康感」について、800字以内で述べてください。